

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的・対話的で深い学びのために必要な思考力・判断力  
・表現力を高める学習活動の創造

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 津川美香  
委員 校長:小林積 教頭: 名目良律子  
教務主任: 米田幸子  
人権教育主事: 西谷道裕  
特別支援教育コーディネーター: 中西麻実

校長

小林 積

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観, 校内研修での報告等, 様々な機会を捉え, 取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み, 学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題)  | 具体的目標(目指す子供の姿)  | 具体的方策(教員の取組)   | 中間期の見直し  | 達成状況(評価)  | 次年度における改善事項  |
|---|---|--|--|---|--|
| ○基礎的基本的な知識を得ようと, こつこつと努力することができる。<br>●「書く」技能の個人差が大きく, 特に視写に時間のかかる児童がいる。<br>●文章に書かれている内容を正しく読み取れない児童がいる。 | ・当該学年までの基礎的基本的な知識が確実に身につけている。<br>・語句をまとまりでとらえ, 速く正確に文章を書き写すことができる。<br>・教科書教材の文章やテストワーク類の問題文の内容を正しく読み取ることができる。 | ・チャレンジタイム(スキル学習)の中で, 当該学年や前学年までのドリル学習をする。<br>・作文読本や新聞等を活用し, 定期的に視写させる。<br>・教材文や問題文に線を引きながら読む習慣をつけるための授業改善を行う。<br>・ICTを活用した教育を推進し, 児童にとってわかりやすい授業づくりを進める。 | ・習熟により, 個別課題を考える。(前学年含め)<br>・視写を継続する。<br>・タブレットでビスケツトやミライシードのドリルを活用する。 | ・当該学年までの基礎的基本的な知識は身に付いている。(8割以上)<br>・語句をまとまりでとらえることは難しいが正確に写せるようになってきている。<br>・初めての問題は苦手であるが, パターンをつかむことで正しく読み取れるようになってきている。 | ・既習事項の復習もチャレンジタイムなどで取り上げる。<br>・視写学習は学年の実態に合わせて継続していく。<br>・様々な問題にチャレンジさせて新しい問題にも臆せず挑戦できる力を育成する。 |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題)   | 具体的目標(目指す子供の姿)   | 具体的方策(教員の取組)   | 中間期の見直し  | 達成状況(評価)   | 次年度における改善事項  |
|--|--|--|--|--|--|
| ○しっかり考え, 自分の思いを表現することに前向きである。<br>●語彙力, 文章構成力が弱く, 自分の伝えたいことを十分に伝えられない。<br>●他者の意見を取り入れて話し合う力が十分とは言えない。 | ・どのような場面でも, 他者の意見を取り入れながら対話的に考え, 自分の意見をすすんで話すことができる。<br>・発達段階にふさわしい言葉を知り, 思考・判断・表現する際に, 知っている言葉を適切に使うことができる。<br>・自分の思いや考え, 感想等を正しい文章で豊かに表現できる。 | ・対話的な学習を各単元の中に計画的に設定した授業づくりを行う。<br>・「言葉の宝箱」を, 短文作り, 作文・日記指導, 国語辞典を使うなどの学習機会に積極的に活用する。<br>・授業の振り返りや作文・日記指導の際に「書く→推敲する」習慣をつけさせる。 | ・対話的な学習を進める学習展開の工夫, 言語活動の設定<br>・辞書の活用, 言葉集め, 短文作りの継続 | ・自分の意見は言いたくて仕方がないが友達の意見から比べたり付け加えたりする児童は半数である。<br>・日記や作文で国語の時間に学習したことを使おうとする姿がみられた。<br>・「楽しかった。おもしろかった。」などの表現が目立ち, 豊かに表現することが難しく引き続いて指導していきたい。 | ・発表時の場の設定を工夫する。<br>・「言葉の宝箱」を様々な場面で使用し, 言葉に多く触れさせる経験をさせる。<br>・語彙力を高めるために読み聞かせ等を効果的に取り入れる。 |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題)   | 具体的目標(目指す子供の姿)   | 具体的方策(教員の取組)   | 中間期の見直し  | 達成状況(評価)  | 次年度における改善事項  |
|--|--|--|--|---|--|
| ○与えられた課題には真面目に取り組む, 最後までやりきろうとする。<br>●「なぜ」「どうして」「もっと知りたい」などの気持ちが弱く, 学習態度が受け身である。<br>●集中が続かず, 教師や友達の話最後まで主体的に聞くことの難しい児童がいる。 | ・見通しをもって意欲的に学習に向かい, 探究的な姿勢で課題を解決しようとする。<br>・教師や友達の話, 自分の考えや思い等と比べながらよく考えて聞くことができる。 | ・児童の学習意欲や探究心が高まる授業について研究を深める。<br>・単元のゴールを明確にし, 振り返りと見通しを一体化させた授業を行う。<br>・児童が考えながら集中して話を聞くことができるよう, 聞き方のルール, 話し方のルールを徹底し, 指導者自身も話の伝え方を工夫する。<br>・激しく変化する社会を生き抜くことのできる資質能力を育成するため, ICTの効果的な活用に取り組む。 | ・めあてとゴールの明確化, 見直し重視<br>・伝え合う時のルールを身に付けさせる。<br>・ICTの研修の充実 | ・めあてに向かって頑張っている。<br>・「聞く姿勢」を低学年で統一することで短期的に集中して聞くことができた。話し方の工夫も必要である。 | ・授業の流れを構造化し, 授業のユニバーサルデザイン化をする。<br>・学習ルールの徹底をするために低中高での共通理解を図る。<br>・学び合いをすすめて, 知的好奇心を刺激する仕掛け作りを工夫する。 |

令和4年度 学力向上ロードマップ

